

# 11・11日比谷へ!

2012年11月9日  
No.66

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

## 全国学生の11・4集会感想!

### ●法大3年生

3.11以降、目に見える形で政治的矛盾と腐敗が露呈し、人々は政府や国家に対して強い不信の念を抱く様になりました。個々人による政治的運動の必要性を痛感した人は多く、政治活動全般に対するハードルは劇的に下がった様に思います。そして現在、反原発運動はヒッピーや市民運動家を中心に一般市民を巻き込み一大ムーヴメントへと発展しています。

3.11以前、反原発運動は一部の人間達だけが携わる村的な政治行動でした。現実社会には目に見えない問題の方が多く、捉え難い場合が殆どです。事件という形で表出しないうり認識されない。社会と言う大きな枠組の中で、膨大な数のノンポリ層と村落的政治運動体が別居する構図。2者が震災によって結び付いた事の意義は今日の政治的盛況を見た人ならば誰も否定しない筈です。目の前で問題が起きている時、「政治運動体」というものが非常に重要な存在になる。

「労働者集会」と銘打たれたイベントに学生が参加する意義はあるのか、また参加するにしても、「労働者」でない自分がその場にどういう立場で参加するというのか。

自分が「11.4全国労働者集会」に対して抱いていた疑問も、こういう情勢だからこそ、結論を出し易かったのだと思います。

労働者の問題も労働者だけの問題ではありません。社会で起きる問題の根は当然、社会にあります。

そういう立場で開いた集会だからこそ、世界各国から駆け付けた労働者の方々と肩を並べて学生も登壇し演説が出来た。



11月4日、法大生を先頭に全国学生がデモ

社会の中で分断されたあらゆる集団・組織・個人が結集し1つになった。

政治がみんなのものになった瞬間でした。政治的結合の連鎖の中に社会問題全般を解決する鍵がある。そう実感できる集会でした。

### ●京都大生

マルクスの階級闘争理論は誤りでも空想でもなく、極めて現実的なものであると感じることができた。実際に事が起きている現場で観察したり、現場で動いている人間と関わったりすることがないと、マルクス主義は空想的であるとか、楽観的であるとかいう稚拙な観念的偏見を持ってしまふ。マルクス主義への理解は社会的な実践と不可分なのであり、その意味で今回の参加は自らの哲学を深めていく上でも有意義であった。

首相官邸前～国会議事堂周辺～永田町～霞ヶ関一帯の超大規模大占拠!

# 11/11 反原発1000000人大占拠

11月11日(日) 13時～ 国会&霞ヶ関周辺デモ  
15時～19時 国会周辺並びに  
周辺省庁での抗議・占拠  
17時～19時 国会正門前大集会

【主催】首都圏反原発連合 ※右写真は今年7月29日の国会包圍20万人デモ



## ●関西の学生

11月4日の全国労働総決起集会は闘う労働組合 闘う学生自治会が社会全体を獲得する段階に入ったということ そして、闘えば必ず勝利することができる段階に入ったことが全体で確認されたことは本当に大きい。戦う学生自治会 労働組合が現場での階級的労働運動を表現していることは現場が決起する要因となるし同時に組織拡大をすることができる。この情勢に対して本当の変革をすべての労働者階級とやっけて戦いを前進させていくことが必須条件である。 だからこそ組織拡大を徹底的に行い 世界革命を一緒に行おう！

## ●広島大2年生

原発反対！、再稼働許すな！だけじゃなく、沖縄の基地も戦争も非正規職も反対！野田も橋本も石原も打倒だ！いろんなことが言える、いろんな戦いをしている人が集まる、それが11・4全国労働者総決起集会でした。あらゆる職場、大学が抱えている矛盾の根本は一つだから、そしてそのこと突き止め確信するほどにを闘って、闘って、闘いぬいてきたからこそ、あんなに解放的な決起集会&デモになったんだと思う。あの場所で職場、キャンパスで闘って、世界の労働者と団結してこの社会変えようっていう勢いと、それは可能だったのを感じました。それというのも集会の中で、腐りきった現実、犠牲なしには生きていけないこの社会、そういったことはみんな大体知っている、でもそれに対して闘って団結を固めていく。こういったことはあまり知られていない、だから闘う人たちの登場が重要なんだと言われていました。前段集会でも登場した法大生、10・19法大闘争では、学外者も自由に入れず、ビラさえ自由に負けない腐敗しきったあの現実と弾圧するだけのわけのわからない暴力職員を見ましたが、同時にそんな現実と不屈に戦う文化連盟の姿も見ました！外注化は強行されても、今度はそれを撤回させると燃える動労千葉。怒りに燃えに燃える沖縄。闘う人はたくさんいてその人たち一人一人の発言が熱かったです。特に福島さんの怒り、そして斎藤征二さんのうったえには圧巻でした。

## ●広島大生

原発反対！、再稼働許すな！だけじゃなく、沖縄の基地も戦争も非正規職も反対！野田も橋本も石原も打倒だ！いろんなことが言える、いろんな戦いをしている人が集まる、それが11・4全国労働者総決起集会でした。あらゆる職場、大学が抱えている矛盾の根本は一つだから、

そしてそのこと突き止め確信するほどにを闘って、闘って、闘いぬいてきたからこそ、あんなに解放的な決起集会&デモになったんだと思う。あの場所で職場、キャンパスで闘って、世界の労働者と団結してこの社会変えようっていう勢いと、それは可能だったのを感じました。それというのも集会の中で、腐りきった現実、犠牲なしには生きていけないこの社会、そういったことはみんな大体知っている、でもそれに対して闘って団結を固めていく。こういったことはあまり知られていない、だから闘う人たちの登場が重要なんだと言われていました。前段集会でも登場した法大生、10・19法大闘争では、学外者も自由に入れず、ビラさえ自由に負けない腐敗しきったあの現実と弾圧するだけのわけのわからない暴力職員を見ましたが、同時にそんな現実と不屈に戦う文化連盟の姿も見ました！外注化は強行されても、今度はそれを撤回させると燃える動労千葉。怒りに燃えに燃える沖縄。闘う人はたくさんいてその人たち一人一人の発言が熱かったです。特に福島さんの怒り、そして斎藤征二さんのうったえには圧巻でした。

## ●首都圏大学1年生

今回の11・4集会は、私にとって非常に貴重な体験となった。

まず、第一に、現在の社会がどのような状況にあるのかということ、大阪や沖縄の労働者の闘いの報告を聞いて再確認できたことである。どれほど多くの人たちが苦しんでいるのか、その中でどのような想いで立ち上がっているのか。沖縄オスプレイで「子どもが苦しんでいる」という報告を聞いて、「なんの罪もない子どもが苦しまなければならない今の社会は、一体なんなのだろう」と憤らずにはいられなかった。資本と権力によるすさまじい分断攻撃をはねのけて11・4に結集したあの労働者たちこそ、「真の労働者だ」と確信した。

第二に、私が一番重要だと思うのは、アメリカ・韓国・ドイツを始め、数多くの国々の労働者たちが結集したことである。海外から日本に来るといのはとても簡単なことではない。それでも彼らは日本に来て、「一緒に闘う」と誓ってくれた。これは今回の集会における大勝利であろう。私たち日本も負けてはいられない。

まとめると、今回の集会で私は、「団結と連帯」という言葉の意味を身体の芯から実感した。「負けるはずがない」と思った。私たちは、国家や資本でも持ちえない、強大な力を持っている。それは権力でも武力でもない。「真に人間的な力」である。この「団結と連帯」の力こそが、これからの社会をつくり、良いものにしていくことができる。

これからの闘いを、「団結と連帯」でガンバロー！